身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する

NPO 法人すいた市民環境会議　　２０１５年８月　第１００号

吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議　会長/小田忠文　ホームページhttp://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm　設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106　中村小夜子　TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491　編集/会報委員会
年会費/正会員（個人･団体）1,000円、正会員（法人）10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円　郵便振込口座番号/00980-3-28845

目　次

１．表紙
２．会長コラムと表紙の絵説明
３．総会報告
４．チガヤ草原と
　　ウツボグサ･ヤマザキソウ観察会
６．吹田市観光講座　第１回から第４回の報告
８．変わりゆく吹田のまちなみ(8)千里山駅東
９．吹田市立博物館夏季展示
　　「まもる自然･つくる環境」
10.「吹田の郷 100 号」に寄せて～当会の歩み
11.私の本棚より「お勧めの一冊」＆
　　新ガンバスタジアム
12.2015 年環境楽座のご案内

コラム

春夏秋冬

会長　小田忠文

この「吹田の郷」は通巻 100 号とのこと。すいた市民環境会議（以下、当会）が生まれた 1997 年からの数年間は年に 4 回発行していて 2000 年ころから年に 6 回発行するようになったと記憶しています。▲私のコラムが始まったのが 2004 年ころだったでしょうか。もう 10 年も書いてきたのかと思うと感慨深いものがあります。今月のテーマを考えていたところ、この 7 月に吹田市観光講座（以下、講座）でお話する機会に恵まれました。▲今年の春先に浜屋敷に数あるボランティア組織のうち「吹田まち案内人」の世話役さんから夏に開く講座で「吹田の自然」というテーマで話をしてほしいという依頼がありました。日ごろは目前のイベントや各種会議、さらに締切り間近かの原稿作成に追われて、済んだことをじっくりと振り返ることをしない日々を過ごしていましたが、講座の資料づくりで過去を振り返ることができました。▲当会の発足直後に、「最初の事業を何にしようか」、「誰でもが簡単にできる、しかし誰もやってないこと」ということで、吹田市内の幹まわり 2m を超える大木の数を調査しました。その結果 420 本の大木を数えました。個々のデータとともに大木をめぐる 13 の「大木と吹田の散策みち」を考案して、冊子「すいたの古木・大木」に掲載しました。この散策みちをつくったことが 2001 年発行の観光マップ「あルック吹田」に進化し、さらに「ぶらっと吹田」など各種散策マップに発展していきました。▲その流れのなかで浜屋敷ではまち案内人という組織ができ、市民が市民や来訪者に市内を案内するというシステムができてきました。今回の講座は浜屋敷が新たに次の案内人を発掘・育成するためのものだと聞きましたので、吹田の自然を語るにあたって、まちを案内するとき、いつ行っても説明できるネタとして大木調査や街路樹調査の内容をたくさんお話しました。▲前段として吹田市の第二次みどりの基本計画から緑被率の説明をしました。万博公園の緑被率が 50%以上だということに改めて驚くとともにニュータウンでも緑被率が 40%以上あることに感心しました。それに比べて JR 南部地域は緑被率が 10%にも満たないのはさびしいものです。その中で街路樹ががんばってみどりを提供してくれています。▲市内の街路樹はケヤキ(25%)、イチョウ(17%)、クスノキ(10%)の三種で全街路樹の過半数を占めます。そしてケヤキのほとんどはニュータウンなど市の北部にあり、逆に市域南部の街路樹のほとんどがイチョウだということなどを話しました。▲2001 年に青年会議所が市内の道路の愛称を決めました。その中で青山台の青山公園と近隣センターとを結ぶ橋のたもとに立派なネムノキがあったので橋の下の道を「合歓の木道」と名づけました。しかしやがて木が枯れ伐採されました。そのため愛称を残しつつ近くにある次世代のネムノキの成長を待っています。まち案内のときの話題にできる場所かなと思います。▲このようにまち案内するときに自然にも目をむけた案内をしていただけるといいなと思いながら講座でおしゃべりしました。いい機会を与えてくださった浜屋敷のまち案内人さんに感謝するとともに「吹田の郷」100 号記念のいい思い出になりました。

＜表紙の絵＞　　吹田の生きものシリーズ（２）

カブトムシ（オスとメス）とカナブン

「カブトムシ」は「コガネムシ科」の昆虫で日本最大の甲虫（こうちゅう）。

「カブトムシ」は「クワガタ」と並んで、子供たちを魅了する昆虫であるが「コガネムシ科」に属し「カナブン」などと同じ仲間である。カブトムシのオスは大小 2 本の角（つの）が頭部と前胸背板（ぜんきょうはいばん）にあるがメスにはない。木の幹上部にいるのが「カナブン」。少し小さいがカブトムシのメスによく似ている。

「クワガタ」は、クワガタムシ科の総称で「クワガタ」という名の昆虫はいない。子供たちを魅了する 2 本の「鍬形」は、角ではなく大腮（だいさい～アゴのこと）で、オスの「アゴ」は大きく、メスも小さいながら「アゴ」があり、「カブトムシ」の角と異なる。

「カブトムシ」も他の甲虫と同様、成長は幼虫期のみで成虫になると成長しない。成虫の大きさは幼虫期の餌の量によって決まる。

（表紙の絵と文：生きもの委員会　塩田 敏治）

第１６回　通常総会報告

理事　田中隆三

6 月 20 日(土)、メイシアター第一会議室で総会が開催されました。委任状提出が 44 名、会員 31 名が出席。会長の挨拶のあと、1 号から 6 号までの議案が審議され承認されました。今回は役員の改選年で下記の理事・監事が選出されました。任期は 2017 年の総会までです。選任された理事の互選で役職も決められました。第 6 号議案の任意団体への移行についての審議では、出席会員から認定取得より解散手続きの方が難しいとの参考意見があったが承認された。

第１部　議案審議

1 号議案　2014 年度事業報告
2 号議案　2014 年度活動決算報告
3 号議案　2015 年度事業計画案
4 号議案　2015 年度活動計画予算案
5 号議案　理事・監事選出
6 号議案　任意団体への移行について

5 号議案で承認された理事と監事と役職

理事：小田忠文（会長）
喜田久美子（副会長）
高畠耕一郎（副会長）
中村小夜子（事務局長）
小田信子　塩田敏治　田中隆三
平　軍二　松岡要三（以上再任）
金指　弘（前監事）
監事：大野和之（前理事）
長岡弘隆（新任）

なお、下村敬三監事が退任されました。
大変ご苦労さまでした。

第２部　講演と意見交換会

平軍二理事による「私と万博公園(万博探鳥会の 30 年)」の講話を拝聴しました。　1970 年に開催された大阪万博から 45 年、この跡地を整備して万博記念公園が生まれた。平理事は公園誕生以来野鳥観察に携わってこられ、その変遷を記録し、また随時報告されてこられました。

樹木が幼かった期間は草原の鳥（雉など）が生息し、樹木が育ち林・森へと変わるにつれ森林の鳥（ヤマガラ・オオタカなど）へと変遷していった。オオタカとカラスの攻防などのエピソードを加え話され、解りやすく我々の関心を促す講演でありました。

カワセミやフクロウからヒントを得て新幹線の 500 系の設計をされた仲津英治さんが来客の一人として出席されていて平理事との出会いのエピソードを話されました。

講演をする平軍二理事

～新しい理事を紹介します～

新たに理事に就任致しました金指です。

本会の理事の方々は、環境やまちづくり等に関係する各種団体で活躍されています。私も本会とは別に所属する団体が複数あり、それら団体との接点になることが私の理事としての役割と思っています。よろしくお願いいたします。

～新しい監事を紹介します～

監事に就任致しました長岡です。

当会議は補助金に頼らず、会費、寄付金、事業収益等に依って運営され、その中で様々な活動実績を残してきた稀有な市民団体です。監事として貴重な資金を監査すると共に、有意義な活動が継続出来るように、一会員として協力して行く所存です。

チガヤ草原とウツボグサ・ヤマサギソウ観察会

生きもの委員会　平　軍二

１．ヤマサギソウ発見からこれまで

2004 年吹田の野草マップ作成をきっかけに実施してきた野草観察会、北千里青山台の阪急延伸線予定地跡を歩く 2011 年 6 月のウツボグサ観察会で、富淑子さんが不明種を見つけた。その不明種を有川佳代子さんが大阪自然史博物館に持ち込んで調べてもらった結果、ヤマサギソウとわかり、しかも大阪府としては 70 年ぶりの大発見とわかった。その後、青山台周辺でイヌセンブリ・スズサイコ・アイナエと大阪府絶滅危惧種の発見が続き、希少種のホットスポットとなったことはこれまで会報に報告してきた通りである。

これら絶滅危惧種の株数が少ないと思われたため盗掘による絶滅を恐れ、公開せずに神戸大名誉教授武田義明先生を中心とする 10 名余のメンバーが、博物館・大学への協力を得て、市役所・大阪府庁などとのも交渉するなど、調査・保護・保全対策を検討してきた。

その後絶滅危惧４種のそれぞれが、200 株以上あることわかり絶滅の心配が少なくなったことから、多数の人々に応援してもらいながら守る方向に変更し、昨年春から展示会等での公開、昨秋からは各種団体に対し観察会を行ってきた。ヤマサギソウの開花は６月であり今年が初公開となることから、多数の方に見て頂きたいと、主催団体・参加者の異なる観察会を行った。

２．今年６～７月に開催したチガヤ草原・ウツボグサ・ヤマサギソウ観察会

今年 6～7 月下表の通り、ヤマサギソウを見る観察会を集中的に開催し、一般の方 100 人ほどにチガヤ草原・ウツボグサ・ヤマサギソウを楽しんでもらった。北千里高校・千里金蘭大学など学校関係３校に見てもらったが、大阪府立大学院生には担当教授藤原宣夫先生から宿題を出されていたこともあって、雨の中で熱心に観察し、その後もヤマサギソウがどうして自生地に入ったかなど、難しい質問を受けた。

観察会集合写真４枚（チガヤ草原と国立循環器病センター）

北千里関係住民への働きかけが少なく、地元参加者は一けた台に止まり、課題であったが、たまたま藤白台連合自治会広報誌担当の方から、街開き 50 周年記念号に万博公園のオオタカ写真を載せたいとの希望が日本野鳥の会に連絡があった。その記念号に北千里の貴重な野草も紹介したいと言われたので、ヤマサギソウ自生地を案内し確認してもらった。

これをきっかけに、北千里公民館・地元自治会の関係者、地元の植物・自然を愛する方々に、吹田の希少種を知っていただくよう輪を広げたいと思っている。

チガヤ草原とヤマサギソウ 観察会 一覧表

月日	開始時刻	主催団体	一般参加者	希少種関係者	花の状況	特記
6月3日	9:30～	日本野鳥の会大阪支部	10	1	ウツボグサ満開	朝、豪雨のため、参加希望者半数キャンセル
6月3日	16:30～	北千里高校	17	3	北千里高内に移植のヤマサギソウ順調	科学部生徒校長先生からエール
6月6日	10:00～	吹田市千里再生室	27	5	アイナエ芽生え確認	天気良く、多数の参加者大満足
6月10日	9:30～	すいた市民環境会議	8	6	ヤマサギソウほぼ満開	鳥関係者7人、車椅子・歩行困難な方も参加
6月10日	14:40～	千里金蘭大学	7	2	ヤマサギソウほぼ満開	大学2年生6人
6月21日	8:50～	SAVE JAPAN	10	10	ヤマサギソウの花終わりに近づく	申込日数が遅くなり、参加者少なし
6月22日	13:30～	大阪府立大学大学院	2	4	ヤマサギソウの花終わりに近づく	藤原先生ご夫妻下見
7月6日	13:30～	大阪府立大学大学院	15	4	ヤマサギソウ枯れた株多し	大学院生14名雨の中熱心に
7月12日	14:00～	藤白台連合自治会	1	1	キキョウ自生地確認も	街開き50周年記念号広報誌編集担当

３．阪急延伸線予定地跡（ヤマサギソウ自生地・チガヤ草原）のゆくへ

一昨年（2013 年）６月に国立循環器病研究センター(以下国循)が、現地建て替えでなく吹田市岸辺駅周辺の JR 操車場跡地への移転が正式決定した。大阪府は国循の現地建て替えを想定して資材置き場とするため、阪急延伸線予定地跡を保有してきたが、利用計画が無くなったことで、移転決定直後にヤマサギソウ自生地を含め売却することを通告してきた。自生地売却に対処するため、昨年より、ヤマサギソウの一部を府有地から吹田市所有地である公園や道路斜面に移植した。しかし、今年移植一年後の状況は、①春の芽生え数が移植数に比べ少ないこと、②芽生えても枯れる株数が自生地より多いなど、移植成功率が低く単なる移植で絶滅を防ぐことは厳しいことがわかった。

今年６月に入って大阪府有地の阪急延伸線予定地跡売却の入札開始が公表された。７月入札受付、８月に売却業者が決定するとのことで、チガヤ草原を歩けるのはここ１～２ヶ月と予想される。前ページの観察会記念写真で人々の周囲を飾っているチガヤ草原の風景（右写真）は今年で見られなくなることになり、バックに写る国立循環器病研究センターも見られなくなる。

青山台4・チガヤ草原・6月

幸い大阪府有地のうちヤマサギソウ自生個所には吹田市の下水道管が埋設されていることから、今年４月吹田市に移管された。他の３種も吹田市所有地にあるため、吹田の希少種４種の自生地は売却の心配が無くなった。

売却予定地のチガヤ草原に生育しているオトコヨモギ・ソクシンランなど、吹田市内ではここ青山台にしか無い植物は隣接する吹田市所有地内に移植した。

絶滅危惧種４種や吹田の希少種が、自生地のみならず移植地でも絶滅することなく生き続けていくことを、見守りたいと思っている。

＊＊＊

次回観察会　吹田の希少種の９月

吹田の街草原ではツリガネニンジンの紫の花、地味で花と思えぬ不思議な形のオガルガヤ、吾亦紅（われもこう）を主張するワレモコウの花が満開となっている。絶滅危惧種はアイナエの白く愛らしい花、つぼみ膨らむイヌセンブリなどを観察する予定です。

青山台・ツリガネニンジン（花）・9月

日　時：　９月 22 日（火・祝）9:30～12:00 頃
集　合：　阪急北千里駅改札口
持ち物：　野草図鑑、筆記具、あればルーペ
参加費：　会員 200 円、非会員 300 円
申込先：　平　軍二　　電話　090-6901-1425
　　メール　g-hira@nifty.com

オガルガヤ・青山台9月

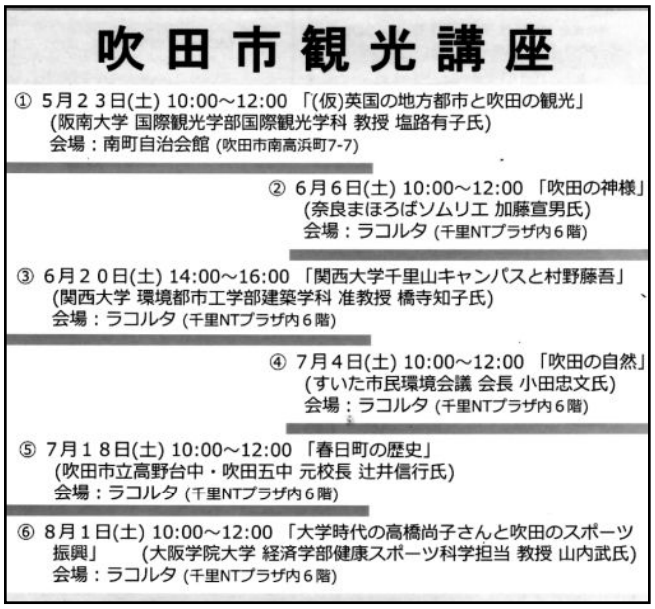
尚、カラー資料を準備するため、必ず申し込んでくださるようお願いします。

平成 27 年度 吹田市観光講座　第１回から第４回の報告

まちなみ委員　井上衣子（浜屋敷 まち案内人）

吹田歴史文化まちづくり協会（浜屋敷）主催の「平成 27 年度 吹田市観光講座」が 5 月 23 日から 8 月 1 日までの土曜日に 6 回の講義で行われています。企画・運営は吹田まち案内人です。毎年好評で申込者数は 43 名、第 1 回から第 4 回までの参加延人数は 163 名です。主な会場は千里ニュータウンプラザ 6F のラコルタです。

観光講座には毎年すいた市民環境会議から講師を派遣しています。今回は会長の小田さんが第 4 回の講義を担当しました。



吹田市観光講座

① 5月２３日(土) 10:00～12:00 「(仮)英国の地方都市と吹田の観光」
(阪南大学 国際観光学部国際観光学科 教授 塩路有子氏)
会場：南町自治会館 (吹田市南高浜町7-7)

② 6月６日(土) 10:00～12:00 「吹田の神様」
(奈良まほろばソムリエ 加藤宣男氏)
会場：ラコルタ (千里NTプラザ内６階)

③ 6月２０日(土) 14:00～16:00 「関西大学千里山キャンパスと村野藤吾」
(関西大学 環境都市工学部建築学科 准教授 橋寺知子氏)
会場：ラコルタ (千里NTプラザ内６階)

④ 7月４日(土) 10:00～12:00 「吹田の自然」
(すいた市民環境会議 会長 小田忠文氏)
会場：ラコルタ (千里NTプラザ内６階)

⑤ 7月１８日(土) 10:00～12:00 「春日町の歴史」
(吹田市立高野台中・吹田五中 元校長 辻井信行氏)
会場：ラコルタ (千里NTプラザ内６階)

⑥ 8月１日(土) 10:00～12:00 「大学時代の高橋尚子さんと吹田のスポーツ振興」 (大阪学院大学 経済学部健康スポーツ科学担当 教授 山内武氏)
会場：ラコルタ (千里NTプラザ内６階)

第 1 回　5 月 23 日　受講者 40 人
「観光とより良い暮らしの実現に向けて」
講師：塩路有子さん
阪南大学国際観光学部国際観光学科教授

◆「観光の地球化」現象とその影響

世界中で観光する人は年間 11 億人で今後も増加する。国際観光は平和であることが前提、平和のサイクルを創出し異文化交流・理解を深める。

◆吹田市の特徴と観光の意味

①交通アクセスの利便性から商業施設や宿泊施設が充実している②大学・研究機関（住民に対する学生数の割合は全国第 2 位）③歴史文化遺産の多様性④住環境の良さと人口増加（府内第 1 位の住み易い町）⑤住民が受け入れられる観光のかたち→地域の発展→まちが活性化→住みたいまちを創出（暮らして快適なまち、訪れてたのしいまち）→若い世代の移住につなげる。

◆観光とよりよい暮らし：英国の事例から

観光は地元住民優先から始まる。英国では住民運動があった。観光都市にするためには、地域に合った観光のあり方、生活を優先し“＋α”として観光を考える。観光客が来ることで多様な遺産を認識できる。「わが街」への誇りを形成する。

●みなさんからの感想から

- **吹田は住みたいまち、地域に合った観光を住民参加で考えることにより、住んで心地よいまちを実現する。**
- **見る・知るだけでなく、楽しみ（店で食さなくても店先での紹介など）を加えて素敵なウォーキングにする。**
- **データー的に吹田の良さを学んだ。まち歩きウォーカーと店の結びつきが参考となった。**

第 2 回　6 月 6 日　受講者 50 人
「古事記と吹田八神社」
講師：加藤宣男さん　奈良まほろばソムリエ

古事記と日本書紀の神様を吹田の八神社で巡る。神社はみな同じように見えますが、祀られている神様は非常に豊かな個性を持っておられます。

神社庁の調査によると信仰別のお社の数は、八幡信仰が 7,817 社、伊勢信仰が 4,425 社、天神信仰が 3,953 社、稲荷信仰が 2,970 社といいます。

●みなさんからの感想から

- **吹田の神様が古事記、日本書紀に関連があることに驚き、神社にはそれぞれの歴史的意味を持つことが分かり、これからは興味をもって訪ねることができる。**
- **近江の多田、山田、佐井寺、淡路が直線上にあり、山田、佐井寺が中央にある仮説に興味を持った。**
- **昔から続いた日本の歴史と吹田の古い歴史を勉強させていただいた。この結果、吹田は歴史のあるまちであることに自信を持った。**

第 3 回　5 月 20 日　受講者 33 人
「関西大学千里山キャンパスと村野藤吾」
講師：橋寺知子さん
関西大学環境都市工学部建築学科准教授

◆関西大学・千里山キャンパスのあゆみ

1886 年に「関西法律学校」創立。1948 年に新制大学「関西大学」となった翌年から、千里山キャンパスにおける学舎等の建築に村野藤吾が約 30 年間も関わった。村野藤吾の全盛期でもあった。

◆千里山キャンパスの特徴と村野藤吾のデザイン

一言で言うと「継ぎ接ぎ・凸凹のキャンパス」千里山は起伏のある敷地で、キャンパス建設はその周辺の敷地を徐々に買収しながら行われた。

そのため、マスタープラン（全体計画）がなく、「つじつま合わせ」や「あそび」が不可欠となり、多様性のある「村野らしさ」が発揮されたデザインとなった。

●みなさんからの感想から

- 学校づくりのデザインへの意欲が感じられた。デザインという視点からの話が新鮮だった。
- 30 年間も村野藤吾さんが関大キャンパスの造営に携われたことを初めて知り、興味深かった。
- 村野藤吾の建築物を取り壊すのではなく、移築して残してもらえればと思う。明治村ではないが、懐かしく当時の建築様式が伺えてよいのではと思う。また、デザインの歴史を感じ、深く知りたいと思った。

★7/27（土）に講座のオプショナルイベントとして関西大学見学会を開催した。現存する村野藤吾設計の建物 20 余りを巡った。建築という無機質で堅牢な印象ではなく、五感にやわらかなものとしての意匠が多く見られ、多様な造形に圧倒された。終了後、参加者とともに「100 周年記念会館」のレストランで舌鼓、親睦を深めた。

第 4 回　7 月 4 日　受講者 40 人

「吹　田　の 自　然　」

講師：小田忠文さん

NPO 法人すいた市民環境会議　会長

すいた市民環境会議は、他の自然を愛する団体と協力しながら活動をしている。その活動成果をもとに、「吹田の自然」について体験を混じえて参加者にわかりやすく説明された。

◆吹田の緑の移り変わり

吹田市環境部の「すいたの自然 2011」は市内の自然（生物の種類や分布）を調査記録したもの。2011 年 3 月策定の「吹田市第 2 次みどりの基本計画」は日本の基本計画 40 選に選ばれた。

◆吹田のヒメボタル

千里第 4、6、7 緑地にヒメボタルが生息している。吹田市は天然記念物に指定した。5 月下旬に光る。

◆すいた市民環境会議の自然調査

96 年の環境教育フェア―の翌年、当会が誕生した。「誰でもできるけど誰もしないことを」と考え、97 年に市内の大木調査した。

すいた市民環境会議の調査

	年度	調査			
1	1997	古木・大木調査	6	2001	街路樹マップ
2	1998	ツバメの巣マップ	7	2002	鎮守の森調査
3	1998	ため池マップ	8	2004	吹田版七草調査
4	2000	四公園の生き物	9	2007	古木・大木―2
5	2000	あルック吹田	10	2010	ツバメの巣―2

●古木・大木調査

環境省は胸高周囲 3m 以上と定義し、当時市内には 5 本しかなかった。そこで幹周り 2m に定義して 97 年の調査では 420 本あった。2007 年の調査では 2.2 倍の 928 本になった。

その他に、ため池や公園の生き物調査、野草調査、ツバメの巣調査、街路樹(13000 本)のマップづくりなど市内の自然を調査記録した。野草調査では、大阪府絶滅危惧種のヤマサギソウ、アイエナなどを発見した。

●街路樹調査

市域の北半分は「千里けやき通り」などのケヤキが一番多い。南半分は御堂筋線などのイチョウ が多い。

◆「特定外来植物から吹田を守る会」

最近立ち上げた組織である。貴重な植物であるヤマサギソウ、ギンラン、トキランなどが見つかった一方で、増えすぎやすい「特定外来生物」のオオキンケイギク、ナルトサワギクなどがかなりの数で見つかっている。8 月 30 日(日)8:30 から岸辺駅北側のナルトサワギク駆除活動をするので、是非ご参加してください。

●みなさんからの感想から

- 長く環境活動、運動を続けられていることに感動した。活動されている方が多いと知った。
- 千里ニュータウンには、緑が沢山あり環境が良いことが分かった。電柱、電線のないところに気付かなかった。また自然の木が大きくなるとき、電線のあるなしが関係することを知った。
- いろいろ吹田の自然について勉強ができた。自然の大切さを知った。また、興味をひかれた。
- 身近にある樹木の講義で、散歩中も木を観る楽しみが増えた。古木・大木調査も参考になった。
- 町歩きの時、街路樹を観て何故大きく育っているのか、植え替えられるのは何故かなど興味をもって歩きたい。

変わりゆく吹田のまちなみ（その8）千里山駅東
千里山団地のおおさか優良緑化賞受賞と駅前商業施設と千里山コミュニティセンター開設

まちなみ委員 松岡要三
（元千里山駅周辺まちづくり懇談会世話人）

大きく変わりつつある千里山駅前周辺、千里山駅周辺整備事業が 2007 年 7 月に始まり 10 年を迎えました。

2013 月 7 月駐輪場の完成、2014 年 3 月 UR 千里山団地の建替え完成、2015 年 1 月千里山跨線橋の全面開通・踏切の車両通行禁止と第一噴水の完全ロータリ化、そしてこの 4 月には駅前商業施設が完成し、その 3 階には千里山コミュニティセンターが開館しました。

今後の予定としては、防災公園としての千里山中央公園(旧電話公園)の整備(2015 年秋)、交番の移設と交通広場の整備（2016 年夏）、千里山佐井寺線松が丘工区の整備と千里山駅西道路の整備（2017 年春）があり、それらと並行して下水管、共同溝なども整備されます。

また今年の 2 月、UR が団地再生に伴って実施したみどりの再生が大阪府の緑化モデルとして第 8 回（2014 年度）おおさか優良緑化賞奨励賞を受賞しました。ここに至ったのも市・UR・市民等が協働して千里山再生にかける想いや意見を交換しながら、千里山らしいまちづくりを目指し進めたことに、UR が真摯に応えていただいた結果で、UR およびその関係者に感謝申し上げたい。

これを機会に市・UR・市民などがまちづくりにどのよう関わったかを紹介します。

2005(平成 17)年 7 月に、千里山駅周辺まちづくり懇談会を立ち上げ、市・UR・市民・学識経験者（アドバイザー）などで話し合い、計画を進めてきました。千里ニュータウンに先駆けて 1957(昭和 32)年に開発された千里山団地の老朽化、踏切の安全性、駐輪場など駅前都市機能の不足、都市計画道路の未整備などの課題解決のため、千里山駅周辺整備事業を進めるためです。

同年 8 月の第 2 回懇談会で市民の中から世話人を募り、同年 10 月の第 3 回懇談会では座長を市民から選んで、以後 2009 年 1 月まで全体会 27 回、世話人会 41 回開催し、また全体会の前には市と世話人代表が事前に協議しながら運営しました。筆者も世話人として参加しました。

懇談会の結果を提案書として 3 件提出しました。中でも 2007 年 1 月に提出した「まちづくり提案書（駅東側駅前空間編）」と 2009 年 1 月提出の「千里山団地地区再生への提案―市民の想い―」は懇談会に参加した市民のまちづくりへの想いのつまった提案でした。

千里山駅周辺まちづくり概要（市ホームページより）

2010 年 6 月からは、2015 年 7 月まで 17 回、市主催で千里山駅周辺まちづくり報告会が開催され現在に至っています。

この間にも、市民有志が「千里山みどりプロジェクト」を立ち上げ、数回のワークショップを経て 2011 年 8 月に「千里山佐井寺線　みちづくり提案書」を市へ提出しています。

以上概要を記しましたが、事業の内容、経過を示した「千里山駅周辺まちづくり通信」（No.1～8）や提案書は吹田市ホームページ「都市魅力を創造するプロジェクト～千里山駅周辺まちづくり」から見られます。是非見て下さい。

http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-toshiseibi/toshiseibishitsu/007078.html

おおさか優良緑化賞受賞について：建替え前にあった樹木の移植や「桜の散歩道」、地域住民による「団地にあった植物の里親募集」などが評価されています。

千里山コミュニテイセンター：休日なしで運営しています。駅に近くて便利です。

（写真右）
受付とコミュニティスペース

吹田市立博物館　平成 27 年度夏季展示　開催中
「まもる自然・つくる環境～こんなのみつけたよ～」

まちなみ委員 金指　弘（夏季展示市民実行委員会副委員長）

今年の吹田市立博物館「夏季展示」（7/18～8/23）は、市内小学校の子供たちも参加する展示を目指しました。

この夏休み中の展示は、吹田市立博物館に市民が大きく参画し「市民実行委員会」で企画・実行しているものです。毎年、多くの市民や子供たちが訪れて、吹田市立博物館に親しみをもっていただく取り組みになっています。

今年は、市内全小学校の４年生を対象に「すいたの自然はっけんシート」を配布し、子供たちが感じる自然を報告してもらいました。ほとんどの小学校からシートが集まりました。

シートは展示づくりの参考とするとともに、夏季展示会期中博物館で展示させていただいています。

今年の展示は、いきものが食べるものから吹田の自然環境について紹介しています。

展示会場をレストランに見立てたレイアウトにしましたので、例年とは違った雰囲気の展示となっています。子供たちが折り紙やぬり絵などで遊べる畳敷きのスペースを用意しています。

さらに生き物への変身グッズや自然に関係する本をのせた本棚も用意しています。

今年の展示位置は子ども目線の
高さで統一しています

また、今年も様々な吹田の環境団体や自然遊びグループが中心となり、展示やイベントが用意されていますので、是非、ご来場ください。

当会「すいた市民環境会議」も、当会理事の平軍二氏（吹田野鳥の会）は野鳥に関する資料提供、塩田敏治氏（ヒメボタル保存会）は昆虫や蝶々の標本提供などで展示協力をしています。また、イベントでは、今年も親子工作「森のクラフト」を行います。

【すいた市民環境会議が講師などで直接参画している行事】

・親子工作「森のクラフト」

日時：８月１９日（水）①10：00～12：00　②13：30～15：30　の２回

定員：各 40 名（多数抽選）　応募締切：８月８日（土）必着

☆詳細日程やイベントの申込みについては、吹田市立博物館夏季展示「まもる自然・つくる環境～こんなのみつけたよ～」ちらし参照下さい。

会報「吹田の郷 100 号」に寄せて～当会の歩み

会報委員会委員長　松岡要三

本号は創刊より 100 号に当たります。創刊は当会設立の 3 ヶ月後の 1997 年 6 月、17 年と 5 カ月よく続いたことです。筆者はすいた市民環境会議には設立当初からかかわり、2008 年から会報を担当するようになりました。初代の秋山こずえさん、古谷啓伸さん、山本富雄さんに続く 4 代目に当たります。

今まで会報では過去を振り返ることがほとんどありません。「温故知新」と言葉もあるので、この 100 号を機会に設立から現在に至る当会の歩みを振り返ってみたい。

設立の準備は 1996 年から始まりました。その呼びかけ文が表 1 です。翌年の 1997 年 3 月 15 日、任意団体の「すいた市民環境会議」として発足しました。設立の発起人には呼び掛け発起人に下記の団体のメンバーや市民 15 名が加わり、

発起人追加団体･メンバー:千里山生協、大阪よどがわ生協、吹田青年会議所、吹田江坂ライオンズクラブ、吹田市婦人団体連絡協議会、関西水系連絡会のメンバー、大学教授、元高校教員、小学校教諭、自治会役員、会社役員、会社員、元会社員、主婦など

1 名を除く 24 名が会の役員（幹事）に就任しました。当会の活動が、他団体との交流が多いことや、当会会員が色々な団体の会員となって活動しているのも、多様な団体のメンバーが集まって当会が設立されたことに由来するものです。

本年度総会で選出された会長・副会長・事務局長ほか計 7 名の理事が設立以来引き続いて役員を勤めています。新しい会員への継承が大きな課題となっています。設立総会で承認された活動方針を表 2 に示します。

（表1）　仮称　吹田市の環境を考える会　呼び掛け文

大阪市の郊外として発展してきた吹田市内の環境は、1970 年の万国博覧会を契機に急激に変わってきました。

（以下、中略）

1996 年 5 月吹田市公害対策審議会あら「環境行政のあり方について」の答申を出されました。公害対策から始まった環境行政が今や、自然、歴史、文化、生活環境など人間を取り囲むすべての要因をとらえようとしています。この答申の積極面を具現化するために行動する時ではないでしょうか。

私たちが住み、働く吹田の環境を良くしていくことを考えようと、今までの環境問題や景観保存、自然保護などに関心ある有志で「仮称･吹田の環境を考える会」を結成することを計画しました。市民一人一人が身近な環境問題に関心を持ち、意見を出し合い、行政とも話し合いをしていくために集いましょう。

……

呼び掛け発起人は吹田自然観察会 3 名、北千里自然観察会 2 名、日本野鳥の会 1 名、旧庄屋屋敷保存会 2 名、大阪北生協 1 名、暮らしの会 1 名、大阪府文化財指導委員 1 名の計 10 名。

基本方針として会の目的や運営など 4 項目を提示。

（表2）　活　動　方　針

1. 市民が環境問題に対して自主的に参加し、市民活動のネットワーク作りをすすめる。
2. 会員と共に環境問題への総合理解（交流、学習、研修）を深め、吹田市の環境保全に努める。
3. 行政、事業者にたいして、環境問題を共に考え、活動する。
4. 希望と勇気を持って楽しく活動し、会員相互の親睦を深める。

そして最初のイベントが環境ウォッチング。岸辺駅から岸部のまちなみ、吉志部神社・紫金山公園、七尾瓦窯跡を巡りました。まちなみ散策、自然観察の始まりです。7 月には環境行政に対する要望書を市へ提出。そして「何か皆で参加できる大きなことを」と自然観察会と協力して「吹田の古木・大木調査」を始めました。（次号へ続く）

すいた市民環境会議会報「吹田の郷100号」に寄せて

秋山　こずえ（高野台在住　会報委員会 初代委員長）

もう100号ですか。会報誌のネーミングが決まるまでに、ケンケンガクガクと「吹田」を「ふきた」「水田」などなど、吹田の歴史をさかのぼり、考え考え結論を出した時間を思い出します。寝ずにワープロに向かっていた時期です。懐かしいですね。

最近、身近な自然が、“何か違うぞ”と感じています。我が家の庭は道路に面していますが、少し高台に有る為か、野鳥の訪問を受けることがあります。それゆえか、知らない植物が突然現れます。私の住むエリアに、こんなに多種の植物があるのかと思いつつも、その除草に手をやいています。

時々、“山羊がいたら”と思ったりします。行政で“山羊の貸し出し”というのはどうでしょうか？公園で山羊が草を食んでいる、心和む風景とおもいませんか。

庭の草木の手入れ（暑さと虫のため滅多にしませんが）と、暦の決まりごと、五節句･二十四節気･七十二候を楽しんでいます。自然が身近になりますよ。

会報100号　おめでとうございます。

＜私の本棚より　お勧めの一冊＞
「身近な雑草の愉快な生きかた」

著者：稲垣　栄洋　画：三上　修　　生きもの委員　高畠耕一郎

私は大阪市内の都会育ちである。
少年時代は、遊び場と言えば、近くの地下鉄駅の切符売り場前の広場であった。そこで、悪ガキが集まってゴムボールで野球をしていた。
そんな私にとって「身近な植物」は、舗装された道の脇に生えていた雑草が中心だった。

だから、この本は楽しみながら読めた。植物に詳しくない人でも読んで面白いし、雑草に興味を持つのにはもってこいである。身近な雑草に焦点をあてた本は、そんなに多くない。しかも、内容が植物学的な形態の説明に重点を置いているのではなく、「名前の由来」や「ことわざの類」「昆虫との関係」等、あらゆる側面から雑草を見つめ直すものになっている。いくつか、紹介しよう。

＜スミレ＞

種子の散布方法がおもしろい。アリに種子を運ばせて、遠くで発芽できるしかけを持っている。スミレは種子の一部にアリが好むゼリー状の物質を付けている。アリは、その「ゼリー」が欲しくて、せっせと自分の巣に種子ごと持ち帰る。巣で「ゼリー」だけを食べ終わると、「種子」はゴミとして巣の外に捨てられる。そこで、新たな子孫を残すわけである。アリとスミレの両方が得をする仕組みをつくっているのである。

＜スギナ＞

「つくし誰の子、すぎなの子」のスギナである。「原子爆弾が落とされた広島で真っ先に緑を取り戻したのが、このスギナだった」「地中深く伸びていた根茎がシェルターのように熱線を免れたのだろう」と、筆者も書いているように生命力が強い草だから除草剤にも負けず生き延びてきたのである。

＜タンポポ＞

私は、「タンポポ調査」を大阪から西日本全体に広げる取り組みにも、深く関わっている。そのことについて、この本は取り上げている。「外来タンポポが在来タンポポを駆逐しているというのは、まったくの濡れ衣なのである」。全く、その通りである。私たち人間が自然を破壊して都市環境をつくってきた。日本の土壌は、元々、「酸性」が強いのにコンクリートが入ってきたためにアルカリ性が強くなり、西洋の土壌に近づいたのだ。その結果、セイヨウタンポポが住みやすくなった。すなわち、セイヨウタンポポからすると、自分に合った環境に生えているに過ぎないのである。だから、外来のセイヨウタンポポを悪者にしても意味がないのである。人間がそのような環境を用意したのである。そのことを私たち人間が自覚することが大切なのである。

以上、３種類の雑草しか取り上げていないが、本には５０種類もの雑草が取り上げてある。面白いので、ぜひ、読んで欲しい。

新しいガンバのスタジアム～（仮称）吹田市立スタジアムが完成します。

オリンピックに向けて国立競技場の建設が大きな問題になっていますが、地元吹田市では、日本代表戦などの国際試合が開催できる４万人収容のサッカー専用スタジアムが、平成27年（2015年）秋の完成をめざして建設が進められています。スタジアム建設募金団体が集める寄付金で施設の建設を行い、完成後は市に寄付されます。Ｊリーグ・ガンバ大阪の新たなホームスタジアムとなり、市の公共施設として地域で活用するほか、防災拠点としての機能も備える予定です。来年２月柿落とし試合、３月よりＪリーグ試合が開催予定です。総事業費は約141億円、募金などの内訳を下に示します。

法人募金：　のべ721社　約99.5億円
個人募金：のべ34,627名　約6.2億円
３つの補助金他：　　約35.1億円

（注）吹田市およびスタジアム建設募金団体のホームページより引用しました。

（会報委員　松岡要三）

第5回（2015年・秋・冬）

環境楽座

かんきょうらくざ

NPO法人 すいた市民環境会議

電気を選ぶ時代

テーマ

全5回 1回でも受講できます

電気を選ぶ時代がくる

なんでんかんでん
おなじ電力会社に
ずうっと
お世話になってきたけど
変わるんだね
自由化だ

なにを選ぼう
選べるのか

選択と行動のために
まず知りたい
学びたい

地域でできること
市民ができること
その意味としくみを

時代が変わる、
時代を変える、
市民の力で
変えていく。

第１回　新電力設立の意味としくみ

9/30 石川雅可年さん
（株）生活クラブエナジー取締役
（水）午後６時30分～　会場：千里山コミュニティセンター

第２回　再生可能エネルギーでまちづくり

10/7 井上保子さん
（株）電源すみれ発電社長
（水）午後６時30分～　会場：千里山コミュニティセンター

第３回　未来志向の家づくり街づくり

10/14 中村　裕さん
パナホーム（株）上席理事
品質・環境本部長
（水）午後６時30分～　会場：千里山コミュニティセンター

第４回　市民主体のエネルギー政策とまちおこし（仮）

10/21 丸山康司さん
名古屋大学大学院環境学研究科
准教授
（水）午後６時30分～　会場：千里山コミュニティセンター

第５回　第４の革命　これからの市民の選択と行動（仮）

12/12 飯田哲也さん
認定NPO法人
環境エネルギー政策研究所所長
（土）午後３時～　会場：dios 北千里　パーティールーム

会　　場：（会場案内裏面）
第1回～第4回
午後6時30分～8時30分
会場：千里山コミュニティセンター
第1第2会議室

第5回
午後3時～5時
会場：dios 北千里　パーティールーム

受 講 料：5回分 2500円
（資料代など　第1回講座で集めます）
1回の場合600円

募集人数：30人・第5回のみ60人
（先着順・連続受講者優先）

受付開始：　8月10日（月）
申込み・問合せ：NPO法人すいた市民環境会議
事務局（中村）
TEL　090－8375－0647
Mail：k-kaigi@hotmail.co.jp

主催：NPO法人 すいた市民環境会議
後援：吹田市（申請中）
吹田市教育委員会（申請中）
アジェンダ21すいた